

日仏教育学会 Société franco-japonaise des Sciences de l'Éducation

基調講演とシンポジウム

どなたでも参加できます！

「文化の多様性と教育—日仏の今日的課題から」 La diversité culturelle et l'éducation

とき：2015年 10月25日（日）13:00～17:00
ところ：北星学園大学 C700教室

参加無料・同時通訳あり

13:00～14:20 基調講演

フランス人招聘研究者 ザヴィエ・シロン（パリ視学局芸術文化視学局長）
Xaviel Chiron Délégué académique aux arts et à la culture de
l'académie de Paris

演題：「学校における多様性への道と芸術文化教育：パリの取り組み」
L'ouverture à la diversité et l'éducation artistique et culturelle
dans le système scolaire français : l'exemple de Paris

通訳：沖田 吉穂（早稲田大学） 司会：鈴木 剛（北星学園大学） 園山 大祐（大阪大学）

14:30～16:50 シンポジウム

1. 北原次郎太（北海道大学アイヌ先住民族センター）
「学校教育におけるアイヌ文化学習—北海道の事例と課題」
2. 吉澤恭子（秋田大学）
「日仏の音楽教育における文化多様性」
3. 服部英二（元ユネスコ事務総長顧問）
「ユネスコと文化の多様性の概念」

総合討論：コメント ザヴィエ・シロン（パリ視学局芸術文化視学局長）

【企画趣旨】

社会における文化的多様性は、それぞれの国の公教育・学校教育を含む諸制度に、どのような課題を突き付けているのだろうか——日仏両国の歴史的・社会的条件の差異を考慮しつつも、今日のグローバル化の中で生起する新たな諸問題を踏まえ、日本とフランスにとっての多文化共生の可能性と教育の課題について考える。教育において「文化の多様性 diversité culturelle」を考慮することは、両国社会状況の違いとともに、グローバル化する世界にあっては政策的にも現実的にかつ重い課題となりつつある。

日本においてもオールド・カマー、ニュー・カマーと呼ばれる移民労働者にかかわる問題があり、歴史的にも先住民族アイヌの問題が存在する。フランスでは移民とイスラムの問題が根幹にあり、映画『バベルの学校 (La cour de Babel)』(2013年)に見るように、フランス社会と学校教育を理解する上で、「適応クラス classe d'accueil」「ライシテ laïcité」「社会統合 intégration」の3つは欠かせないキーワードになっている。2005年ユネスコ提案「文化の多様性に関する国際条約」の基底にある「文化の多様性」概念の意義を含め検討する。

〈問い合わせ先〉：大会開催委員長 鈴木 剛（北星学園大学）まで
TEL. 011-891-2731(代表) (内線 1315) / E-mail : tsuzuki@hokusei.ac.jp
日仏教育学会事務局：〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学
学校教育学部 大前研究室内 TEL:025-521-3380 E-mail : ohmae@juen.ac.jp